

# パートナー ～令和6年度活動報告～

## はだの市民が創る 男女共同社会推進会議



4月20日(土)  
定期総会  
第一回部会

令和5年度の決算及び事業報告、令和6年度の予算及び活動計画について、議案どおり可決されました。その後、フォーラムと啓発に分かれ、1回目の担当者会議を行いました。

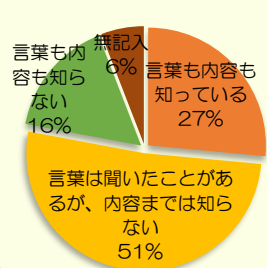
6月29日(土)  
はだの男女共同  
社会フォーラム



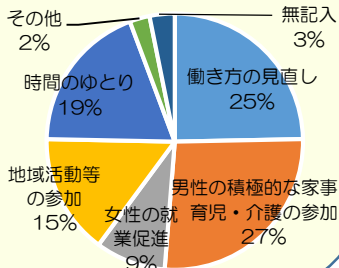
防災士のマリカ先生をお招きし、「すぐできる!防災と備蓄収納 暮らしの中に防災を」を開催。80名の参加があり、クイズやマジックを交えながら楽しくご講演いただきました。男女共同参画に関するアンケートも実施しました。



ワークライフバランスという  
言葉と内容を知っていますか



ワークライフバランスの実現  
に必要なと思う取り組みは



11月12日～25日  
女性に対する  
暴力をなくす運動

展示及びグッズの配布、西庁舎フェンスへ横断幕の掲出、秦野駅のデジタルサイネージで啓発しました。本庁舎で行ったパープルライトアップには、女性に対する暴力根絶のシンボルであるパープルリボンにちなんで、被害者に対して「ひとりで悩まず、まずは相談をしてください。」というメッセージが込められています。



図書館



教育庁舎



パープル  
ライトアップ



デジタルサイネージ



横断幕



6月23日～29日  
男女共同  
参画週間

市役所教育庁舎、本町公民館、図書館の3か所で展示及びグッズの配布を行いました。29日(土)には、イオンにて街頭啓発活動を行いました。



教育庁舎



本町公民館



図書館



街頭啓発活動

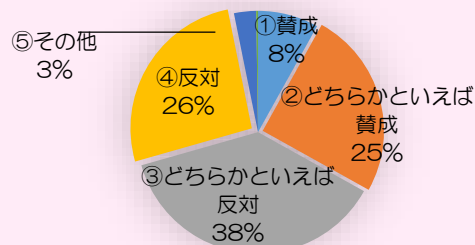


11月3日(祝・日)  
市民の日



第45回市民の日に参加し、「男女共同参画社会」への関心を高め、意識の啓発を図ることを目的に、PR及び男女共同参画関連のアンケートを実施しました。アンケートには408人にご協力いただき、仕事・家事育児について「性別関係なく、できる方がすればいい」等といった意見がありました。

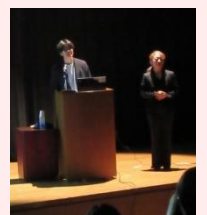
男性は仕事を優先し、女性は家事・育児を優先した方が良い。



11月23日(祝・土)  
人権・男女共同参画  
を考える会



ちふれグループLGBTQ+アンバサダーの櫻木彩人氏をお招きし、「ありのままの自分で、ありのままの選択を」をテーマに講演会を開催。ご自身の経験からLGBTQ+や多様性社会についてご講演いただきました。アンケートには「LGBTQ+は身近な問題である」ことや「色々な立場の方がいる事を知った。決めつけをせず生活したい」等の意見がありました。一方で、「男女」の差や考えが未だ根付いているという意見もありました。

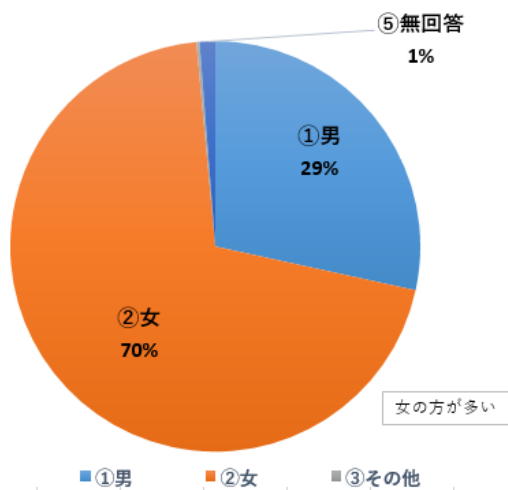


引き続き男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでまいります

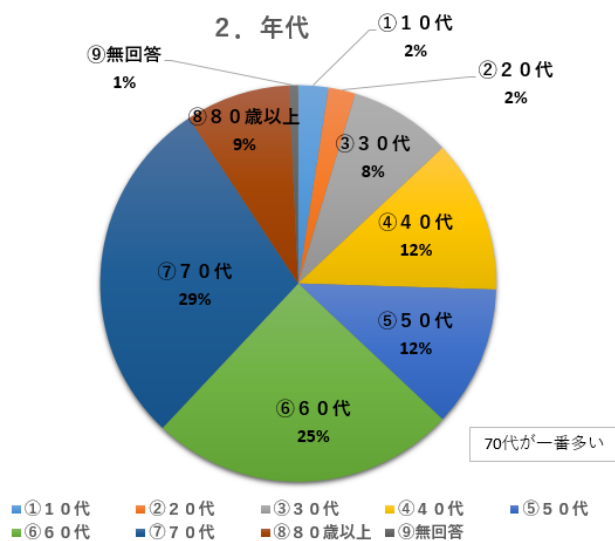


# 令和6年度「市民の日」行政コーナー参加によるアンケート調査結果 (408人回答)

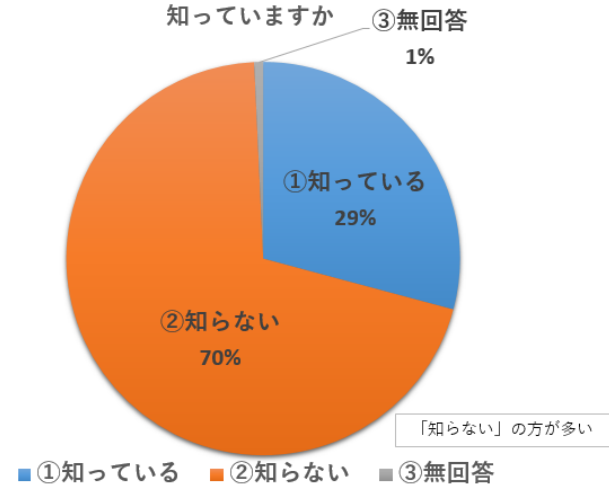
1. 性別



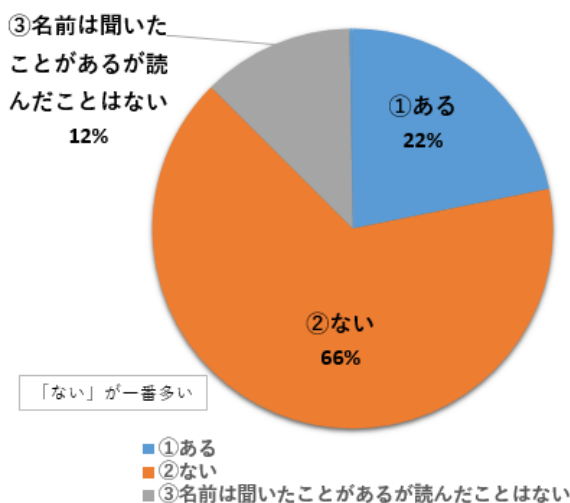
2. 年代



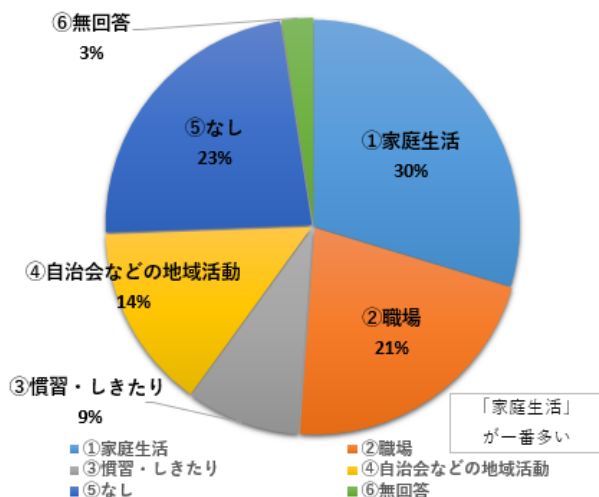
3. 「はだの市民が創る男女共同社会推進会議」を知っていますか



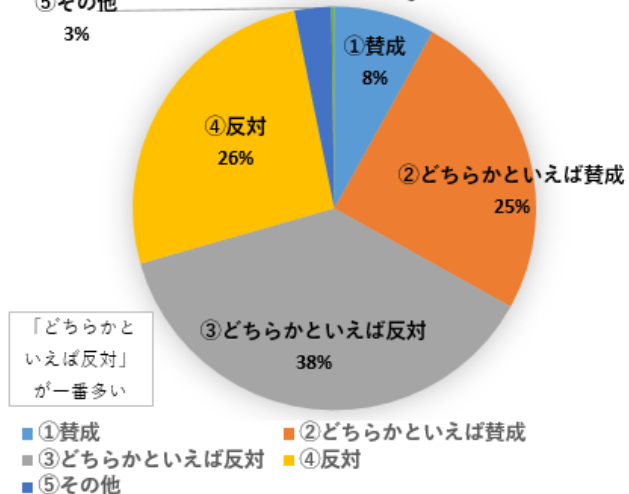
4. 情報誌「パートナー」を読んだことがありますか



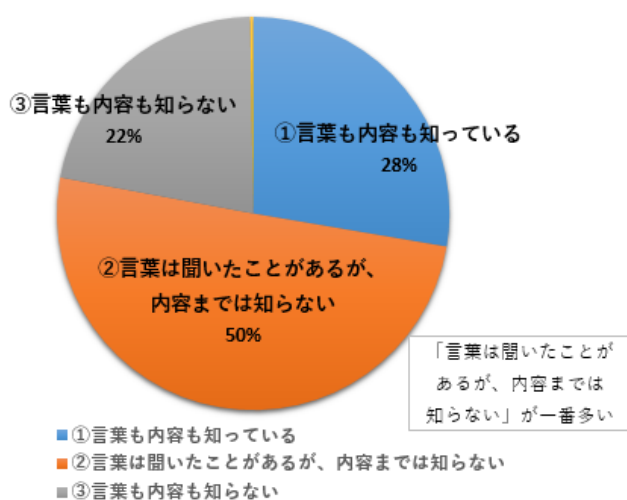
5. 次の分野において、男女平等になっていると感じるものはどれですか。(複数回答可)



6. 男性は仕事を優先し、女性は家事・育児を優先した方が良い。

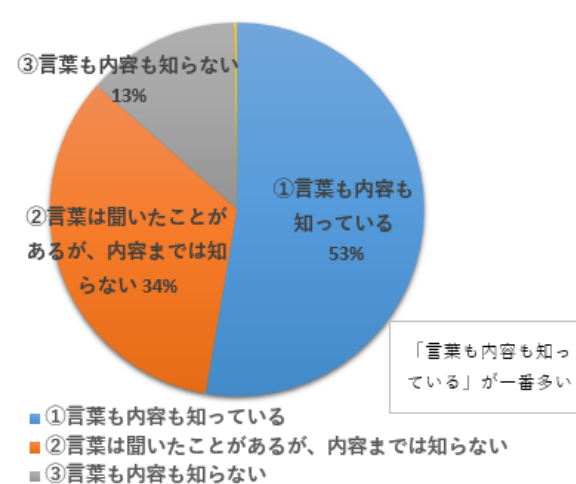


7. 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉と内容を知っていますか？



男女平等になっていると感じる分野については、家庭生活と回答した方が一番多く、次の質問の「男性は仕事を優先し、女性は家事・育児を優先した方が良い」については、反対とどちらかといえば反対を合わせて64%であることから、家庭内の役割分担について、性別によらずコミュニケーションがとれてきていることが伺えます。

8. 「LGBTQ（セクシャルマイノリティ）」という言葉と内容を知っていますか？



「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉と内容を知っているかについて、言葉も内容も知らないと回答した方は22%でした。言葉をより広く普及させるため今後も引き続き男女共同参画週間等を通じて啓発を進めていきます。



「LGBTQ（セクシャルマイノリティ）」という言葉と内容を知っているかについては、メディア等により浸透してきていますが、言葉も内容も知らないと回答した方が13%おり、今後も引き続き正しい理解を促すよう周知を行っていきます。